



創刊号から第39号までの季刊紙

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤龍弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番10  
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆  
小林国二・小林善明・高橋潔・加瀬由紀子  
室賀清輝・近藤マリ子・高橋利春・近藤善信  
後援・株式会社アサヒ  
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧下さい

## 迎春

今年も宜しくお願ひ申し上げます

翠巖龍弘

お陰様で季刊紙発刊十周年を迎えることができました

平成も早、二十年となりました。過ぎた月日は早いと申しますが、私もあつという間に昨年還暦を迎えました。上の写真は平成十年三月七日創刊の『季刊 蔵王山安善寺』第号から平成十九年九月十八日発刊の第三十九号までのものです。

故・安藤一夫様の「安善寺が檀信徒の皆様方から身近な存在になつていただけの手助けになるように、また、仏教が大勢の人達に親しんでいただき、生活に活かしてもらいたい」との願ひから季刊紙の発刊が決まり、一切の負担を担われ、初代編集委員長を務められ、大変なご尽力をしてくださいました。しかし、第十七号を数えた後、他界されましたが、その後も（株）アサヒ様の「厚意をいただき、小林国二編集委員長

をはじめ編集委員の皆様、読者の皆様の御協力によりまして、早いもので今回の第四十号で満十年を迎えました。十年一昔と申しますが、色々なことがございました。災害は忘れた頃にやってくると言われておりますが、新潟県では平成十六年七月には中越地方を襲った集中豪雨、十月には中越大地震があり、災害復興が終わらず記憶が生々しいうちに昨年七月には中越沖地震があり、柏崎市・刈羽町・長岡市の特に大積地区などで多大な被害がありました。そんな中、全国から大勢のボランティアの方々が応援に駆けつけてくださったり、多くの方々から沢山の見舞金や品々をお送りいただき、被災地の人々はどれだけ勇気づけられたか知れません。

最近のニュースを見ますと、心傷める事件が毎日のように起こっており、日本人はどうかしたのかと感ずることもあるでしょうが、ほとんどの日本人は心優しく皆の幸せを願う国民だと心底信じていることが出来たのも、大変ですが被災の経験によつてだと思えます。

私共は地球上、大地の上で生活しております。その地球の営みの中、必然的に起きる地震などは日本中何処であつても不思議ではありません。そんな時、日本人の皆さんが互いに協力し合う姿は、まさに菩薩行そのものではないでしょうか。

今年も季刊紙が多くの方々に少しでも心の糧となることが出来るよう、皆様の協力を編集委員一同願っております。



# 【日々精進(二)】

## 秋の風物詩、落ち葉で焚き火、もうできなくなりました…

近藤 真弘

学生生活を含めると約十年ぶりの長岡での生活、あつという間に夏が過ぎ秋が過ぎ本格的な冬がやってきました。

都会で暮らしていると気温の変化があるものはつきりと目に見える季節の変化というのが感じにくいところもあります。この半年で



久々に感じ、見た長岡での季節の移り変わり、お寺の周りの木々の変化や東西の山々の少しずつ変化する色模様、寒さとともに降りだした初雪、「まだこれは根雪ではないだろう」なんて会話のひとつも雪国ならではの会話だなあと改めて実感します。降り積もると何かと厄介な雪も初雪を見るとこれから本格的に冬がやってくる、なんかわくわくもします。

今は境内の樺やいちようの木々もすっかり丸裸になり冬支度万全になりましたが、その過程では大変な作業がありました。そうです落ち葉掃きです。ここ何年かで境内の樺も老朽化のため何本か切り、確かに本数は減りました。しかしそれでも木が減った

のを感じさせないくらい大量の落ち葉がまさに降り積もります。これがまた一度に全部落ちてくれれば手間も一度で済むのですが、当然そういうわけにもいきません。木の年齢や日当たりの違いでしょうか、同じ境内の中でも紅葉の段階から随分違いがあります。

私自身落ち葉掃きというのはどちらかというとそんなに苦にはなりません。むしろ掃いた後のきれいななった様子を見ると大変満足をして気分もよくなります。一風吹けばまた元の

もくあみになるのですが、それは仕方ありません。常に綺麗にするためには毎日掃き掃除をやればそれでいいのですがそうもいきません、天候が重要になってきます。雨の日は当然掃くことができませんが、晴れたとしても雨の翌日なんかは湿った落ち葉がアスファルトにくっついてなかなか掃くことが容易ではありません。よい天気が一、三日は続かないと掃くのに適した状態にはならないのです。アスフ



アルトの無かった昔はそんなことは無かったんだなと思いましたが、それよりも昔との違いで一番大きいのは落ち葉の処理です。何年か前からダイオキシンの問題でゴミを燃やすのと同様に落ち葉を燃やすことができなくなりました。そのため、今はどこかに積み重ねるか、ゴミ袋に入れてゴミとして出します。環境破壊防止のため仕方無いことなのでしょうが、焚き火というのは日本

自分の力で生きているのではない お陰さまで生かされているのです



# 歩くことで感じるもの、 見えてくる物がある

久慈市 會田 則子

父が八十五歳の頃でした。「おらほの娘達は、運転免許証を持って無から、人を傷つける心配が無くて良」と言うのです。この娘達は、私を含めて六十歳前半のおばさんばかり。なるほど、こういう見方もありますよね。子が幾つになっても親は親なんだと、改めて親心を感じた

ものです。

今時、運転が出来ない人は珍しくて、世の中はすっかり車社会になりましたが、私が子供の頃は全然違います。十歳頃に初めて家の前の東京から青森間の国道四号線が舗装されました。それまでは国の大動脈も、車が通ると土埃が舞っていたのです。

車はせいぜいバスと少しのトラックくらい。自転車とリヤカーが中心です。十一歳頃より一斉にと言う言葉がピッタリですが、バイクとスクーターが道一杯に練り出しました。少し前にテレビに写っていた中国やベトナムなどの国々と全く同じです。更に、東京オリンピック後の二十歳頃にスバルのてんとう虫型軽自動車が登場して道路を埋め尽くしたのです。やっと自家用車を持つ時代になったわけです。それからは、今の車社会と似たり寄ったりでしょう。

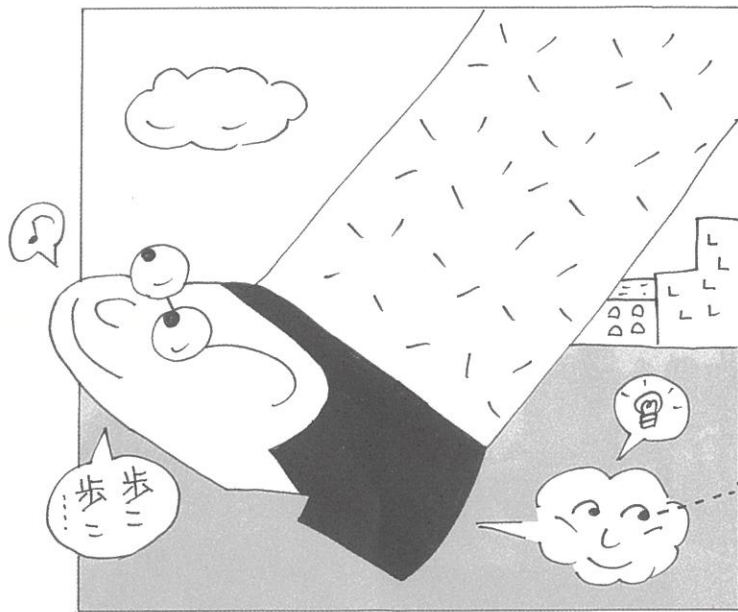
最近の車事情は少し違ってきました。こちらの市内を走るバスが全廃になるといいます。運転できない人には痛手です。空いているバ

スを心配していたら、まさか、否、とうとう来るときが来たのでしょうか。バスが無くなるくらいですから、街は人通りも少なく、シャッター通りが増えて、賑わっているのは郊外のスーパーや大型専門店ばかりです。

老いも若きも、車で出かけるのは便利なのでもっともだと思えます。でも豆腐や肉を買うのに高いガソリンを使って、維持費の高い車に二

人や二人で乗って行くなんて、贅沢で変な世の中になったものだなあと思うときがあります。そう言う我が家も夫の通勤に車は必需品です。遊びや買い物にも時々夫にらせていてもらうので、あまり大きな口はたたけません。

でも私は幸せなことに、小さな市に住んでいるので日頃の用足しは歩いて間に合います。運転でないので歩



くしかないし、それが簡単な方法なんです。歩いて老化防止に役に立つなら、こんな楽なことはありません。(私はちよつと手遅れ気味ですが...)生活習慣病の予防にもなるとか。

さて、散歩を兼ねて歩いていると、もう白鳥が飛来して泳いでいる姿を見ることが出来たり、冷たい風に当たった瞬間は厳しくとも、そのうち体も暖まったまっ

てきて心地よくなります。寒さも何のその。風邪も引き難くなりました。街の魚屋さんにも歩いて行きます。スーパーにない種類の活きの良い魚が並んでいて迷ってしまいます。ついでにウインドーショッピングをして、疲れてきたらお気に入りのモスバーガーでコーヒープレイク。ゆつくり一人で愉しめるのはまっています。歩くことは大きい目で見ると温暖化を遅らせる、小さな行いとも言えるそうです。ところで、近所で見かける歩いている人ってどんな人達だと思われませんか。私が見る限りでは、登下校

の小学生が一番多いです。中・高校生も通ります。あとは犬の散歩の人と私のようなおばさんが少し。若くて元気な数人の女性に時々逢いますが、決まって中国から働きに来られている方々です。年輩の人は案外自転車で、傍らをスイーッと通り過ぎていきます。田舎では徒歩の人は本当にわずかです。

色々な事情を抱えている皆さんにお勧めし難いのですが、いつも便利な車で買い物に出かけられる方々も、たまには多少面倒でも歩いて街の商店へお出かけになるのは如何ですか。また、お忙しい皆さんも時折マイカーを休ませて、バスを利用してはいかがでしょうか。歩いて行くと、いつもと違った景色が待っていて小旅行の気分になりますよ。そして、地球温暖化の害が叫ばれるこの頃ですから、バスなどの公共の乗り物を大切に利用することが世の中のためになると思います。つまりは、あなたのためにもなるのです...



# 私の初夢

室賀清輝

昨年、市長選挙で中心市街地への市役所移転が争点となり、現職の森民夫市長が当選され、移転が決まりました。私の考えと二部共通する所もあり、私は移転に賛成でした。以前より私は長岡市の将来への夢としての考えを持っていましたので今回の機会に書かせていただきます。

私の名刺には「歴史有る町を大切に…」と書いてあります。歴史は古き良き物も含まれます。長岡には昔からの伝統ある行事・建物があります。残念ながら二度の戦火で無くなった物も多いですが、悠久山の蒼紫神社、金峰神社や安善寺など、大切に保存されている物もあります。が、残念ながら現在は残っていません。

昨年、市長選挙で中心市街地への市役所移転が争点となり、現職の森民夫市長が当選され、移転が決まりました。私の考えと二部共通する所もあり、私は移転に賛成でした。以前より私は長岡市の将来への夢としての考えを持っていましたので今回の機会に書かせていただきます。

現在中心街には三本の地下道・駐車場があります。一度地上に出て、また地下に入るというようにバリアフリーとはいえない。駅東口と西口に通じる地下道と、バス乗りの三本を連絡できるようにしなければ利用価値は半分以上ないと思います。

お年寄りの方でも住みやすい街になると思います。最後に千歳町の旧操作場跡地の利用方法です。中越地震で仮設住宅が建っていましたが、現在は一部を残して整地されています。今後は税務署、法務局、労働基準監督、ハローワークなどの国の出先機関が集まる「シビックコア」ができ、市の消防署や新潟日報社が移転して来る予定だそう。北側には防災公園が出来ると予定と聞いております。

その他、南側には用地が残るそうですが、私はぜひそこに除雪機関車を展示する施設にもraitたいです。長岡市沢田にあるJR東日本の車庫には日本といわれる除雪機関車があるのです。只見線、飯山線と豪雪地帯を走る線を除雪するためだそう。数年前に見学させてもらえる機会があり、その時の写真も添えてみました。



現在、民間化されて、機関車の維持にも多額の金も必要となり、少額での売却も検討されているようです。中でもDD53という大型ロータリー車は全長26.3m、重量110トン、出力2200馬力だそう。この除雪機関車は冬場を除けば倉庫で休んでいます。ぜひ冬場以外に見学出来る施設にしてもらいたいです。

長岡駅は本丸が、イトーヨーカ堂に、天守閣が、厚生会館には二ノ丸があったそうです。数年前の地下駐車場工事の際には「内堀」も発掘さ

れませんでした。残念ながら堀跡は埋め戻され現在は見る事ができません。厚生会館を取り壊した後、シティホールの建設の際にはぜひ堀跡の一部だけでも保存復元し、見学できるようにしてもらいたいと思っています。

現在中心街には三本の地下道・駐車場があります。一度地上に出て、また地下に入るというようにバリアフリーとはいえない。駅東口と西口に通じる地下道と、バス乗りの三本を連絡できるようにしなければ利用価値は半分以上ないと思います。

現在、民間化されて、機関車の維持にも多額の金も必要となり、少額での売却も検討されているようです。中でもDD53という大型ロータリー車は全長26.3m、重量110トン、出力2200馬力だそう。この除雪機関車は冬場を除けば倉庫で休んでいます。ぜひ冬場以外に見学出来る施設にしてもらいたいです。

除雪機関車は東京では見ることができません。長岡に来てはじめて見る事が出来るのです。どこにもある美術館や遊園地ではなく、長岡に出来ない見学できない施設であれば全国から人は来ます。「長岡らしさ」「長岡でしか無い物」という意味からも、ぜひ実現してもらいたいものです。それから、長岡には南極大陸を横断できる大型雪上車を造っている会社もあります。雪上車も一緒に展示すればなお良いのではないのでしょうか。

私の初夢が実現できることを願っております。

## 読者からの便り

### 戦争の深い罪を後世へ

匿名希望さん

連休三日目、天候はまさに夏、何処へ行つても車と人。ようやく近代美術館に入館出来て藤城清治「光と影のファンタジー」展へ。切り絵と流れる水の上に映し出される素晴らしい芸術に、声も出ず人波に流されてただ感激の時を、まるで夢の中の出来事のように過ごし、胸の熱くなる一日でした。

作者は、私と同じ世代で、しかも慶応の予備学生であったとか。長岡でも今の工字部の人達も予備学生で、戦場まで行かないうちに飛行機の不備による事故ではない十九才で散つて逝かれたというお話。

その頃の人達が今あらゆる分野で花開かせたり、豊かな老後を過ごしてられるのを知り、もう一度改めて戦争の深い罪を後世の人達に訴えて行くことの大切さを強く感じたものです。



# 小春日の旅を満喫! 「俳句の会旅行」

渡辺 範子



恒例「俳句の会の旅行」。吟行というのでしようが、都合の悪いことはすべて忘れて総勢九人、待ちに待った楽しみ極に達し。特に今年は積立旅行を始めて十年目。今までの余剰金もあるとのこととで「泊旅行となりました。」

快晴の十月三十日の朝、安善寺様で無事を祈って出発。昼頃には福岡空港に着。ガイドさん付小型バスに乗り先ずは水前寺成趣園で桃山様式の優美な庭園を眺めながら御薄を二服。熊本港か

らカモメの大歓送を受け修学旅行生と手を振り合って島原港へ。再びバスで阿蘇山を散見し、遠くに白煙上がる普賢岳に思いを寄せ、賑わう雲仙旅館街を通り、お糸地獄の解説を聞きながら目指す「新湯ホテル」へ到着。

夕食には十二品目の献立、焼酎など色々のお酒に蒔蓄を傾け、九人とは言いながら大したものです。

翌三十一日は本場長崎カステラのお土産をたつぷり買い込み、豪華客船を下に見て異人さんの間を縫って坂を登り、国宝大浦天主堂、ゲラバーボス邸を見学しました。平和記念公園では突然の鐘に思いを新たに黙禱し涙しました。広島とは違う公園の佇まいです。

ガイドさんの永井博士の「長崎の鐘」の二節で感動しつつ今晩の宿「博多全日空ホテル」へ。外食の水たき料亭の手際よさ、美味しさは圧巻でした。

十一月一日には天満宮に詣で吉野ヶ里遺跡では弥生時代をしのび、何かと朝鮮半島に近い九州を感じ二泊

十月三十一日、暖かい秋晴れの日、今日は我が社の三十周年記念コンペである。

## 創立三十周年コンペで 見事！ ホールインワン

総勢八十八人の皆さまより参加いただき、二組目としてスタートしました。



多少緊張気味のスタートでしたが、10番ボギー、11番パー、12番ボギーとまずまずの出足で13番へ。オーナーは左の杉超え、次は私の番です。右はOB、引つ張り過ぎてOB、187ヤード中段のグリーン。ここは右より左目、上手くいけば左のラフから右へ転がる等を頭に5番ウッドでナイスショット。

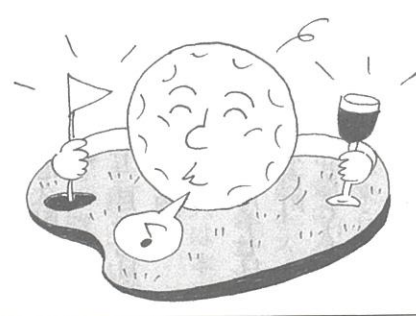
まっすぐにグリーンより少しはずれると思っていると、同伴者が「寄ってる...消えた!」、キャディーさんも「消えたから入ってるかも!」「音が少し聞こえた。入ってるよ」と同伴者。

グリーンへ到着するとキャディーさんが走ってカップの中を見て「入っています。ホールインワンおめでとうございます」の声。私も確認して球を拾って、三人がホー

三日の申し分のない小春日の旅を満喫しました。バスにもどる時に見る「安善寺俳句の会」というプレートにドキッとされるもの、すぐ忘れて遊んでいました。

坂の街 範子

ルアウトするのを待ちながら、ホールインワンは二度目、今回は保険に入っているから安心、ボールも新品で良かった、記念にとっておこう...等、結構平常心でいられました。夜の祝賀会は、会社創立三十周年記念と私の還暦。そこへプラス、ホールインワンの祝いとなり大変な賑わいと喜びの中に会を終えることができました。同伴者をはじめ、コンペ参加の皆様、祝賀会参加の皆様方には大変お世話になり、こころより御礼申し上げます。



高橋利春

他人の悪口はウソでも面白いが 自分の悪口は本当でも腹が立つ



# 第十回 KAKA笑の会報告

## 心癒された「三糸の会」



お琴、尺八、お三味線と、なんと贅沢な邦楽ライブであったことか。一部はお琴と尺八、お三味線が入って粹な声にうつり。小林朝喜勢さんは、長岡のお寿司屋さんのお嬢さんで、四歳の頃から

山田流琴曲を学び、現在東京在住。東京の三曲協会に所属しており、声も腕前も一流！ 小学校の頃から音楽会になると独唱をさせられたそうで、さすがです。 二部はガラリと変わり細

棹三味線を使って山本普乃、上原潤之助さんとの二千年に結成した「三糸ライブ」。江戸の端唄、小唄から、越後獅子の長唄に掛け合いの現代曲など幅広く披露していただき、三糸の世界です。時々楽しいトークで太棹・中棹・細棹三味線の違いなどを分かりやすくお話しされて、私達も納得……。新潟にはご縁があり、上越教育大学の講師としておいでになっています。(生徒さん達の覚えがともいいんだそうです)

最後に岩室甚句、米山甚句、両津甚句、そして皆さんと一緒に手拍子で長岡甚句を歌ってお開きとなりました。(ちなみに、甚句とは「波」を現すのだそうです) なおCDのご注文を受け付けていますのでご希望の方はお申込ください。 秋の夜長に心癒された素晴らしいひとときでした。

世界遺産・最大の仏教遺跡『アンコール・ワット』を訪ねて!

# [ベトナム・カンボジア旅情]

◆期日 平成20年2月24日(日)～29日(金)

◆旅費 169,000円

その他、空港税・成田への往復送迎代など別途39,480円ほどかかります。

◆人員 30名

◆旅行企画・実施 ピーエス観光

〈お問い合わせ・お申込は〉

**安善寺 TEL.0258-32-2811**

※お申込は1月8日までをお願いします。



### お別れ

(平成十九年九月～十二月末)

吉野達平様 九月三日寂  
千葉市若葉区

土田善治郎様 十月廿二日寂  
長岡市四郎丸

小林忠五郎様 十月廿二日寂  
長岡市脇之町

土田源三様 十月廿五日寂  
埼玉県北本市

保達勝司様 十二月五日寂  
長岡市悠久町

本多好男様 十月十四日寂  
長岡市城岡

風間岩雄様 十月十七日寂  
長岡市台町

ご冥福をお祈り申し上げます。



他人がすれば腹が立つことを自分は知らずにやっている



# 旬歌 愁灯

[その十五]

## アラバマに星落ちて

加瀬由紀子

「尾瀬国立公園の誕生」。

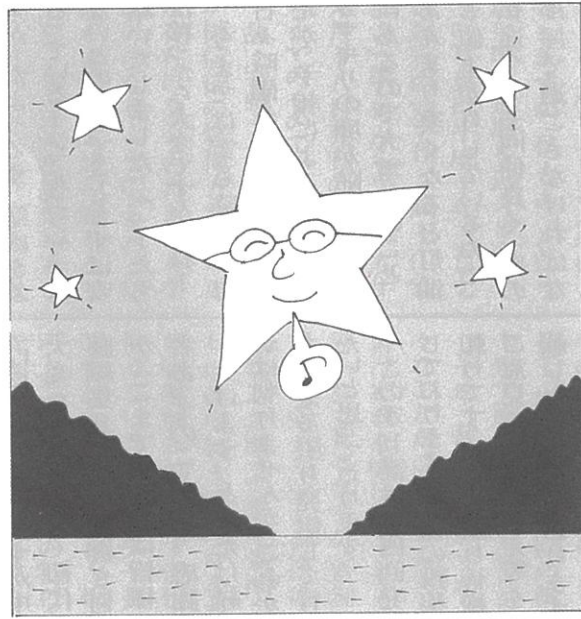
「尾瀬国立公園から分離、新たに会津駒ヶ岳、田代・帝釈山を含めた地域が新公園に該当する。十月には田代山、十一月には帝釈山の入口で私たち環境省・尾瀬パークボランティアは、ゴミ持ち帰りや自然保護などの啓発活動やアンケート回収を行った。週末の入山数は今までの倍で、新たに加わった地域が脚光をあびているのだが、至仏山の東面登山道の例を挙げるまでもなく、オーバークースやマナーの低下による荒廃が進まないことを祈るばかりである。

「尾瀬国立公園の誕生」。

今は深い雪の中、遠い春の訪れを待つて新国立公園に編入されたのも関係なく（昨年の流行語、カンケイネー）山々は静かに眠っている。新国立公園誕生で、尾瀬保護財団や環境省の尾瀬関連の会議に、毎月一回は出かけた勘定になる。主に都心が多いのだが、新幹線で行けずにも車を運転して行くのは、日光にある環境省北関東野生生物保護事務所だ。十二月半ば、関越トンネルを抜けると雲ひとつない青空で、会議の後はキリンピールの保養所に泊まった。

環境省が用意した宿泊施設はキャンプ場のトレイラーハウスで自炊、といったもので、参加者全員のブリーングで変更されたのだ。参加者の一人がキリンの社員で保養所の提供を申し出ての変更だったが、二十四時間利用できる温泉と、フランス料理のシェフによる食事付きで六千五百円は、どこぞの偽装企業も見習ってほしい待遇だ。ヨーロッパの山荘風、アメリカ開拓時代の雰囲気もある建物は、林の中で湯川のせせらぎを耳に快適だった。夜、星が林の隙間にきらめき、私はビリーホリデイの名曲「アラバマに星落ちて」を口ずさんだ。古今東西、星の光は旅人を癒し、ロマンチックな気分にくれるらしい。明け方、二重になった窓の外に、さらさらと粉雪が舞っていた。

翌日は戦場ヶ原でシカのテレメ調査の実習。アンテナを持つて荒涼とした原を駆け巡る集団を、観光客は怪しんだ。二十五日まで通行できると保養所で聞いた金精峠周りで沼田へ向かう。圧雪のアイスバーンを丸沼高原スキー場へと、東京ナンバーの車が飛ばして行くのがこわい。星と粉雪の日光は、私を十分ハッピーにしてくれた。



ときつく注意を受けた。そこで二年発起、大学でトレナーの勉強をしてきた娘にメニューを作ってもらい、水泳チャレンジが始まった。少しは泳げたのだが、初めは二十五メートルがしんどかった。徐々に泳げるカンが戻ってきて一時間に二千メ

「新しいスポーツジムの誕生」。昨年の秋、尾瀬から下山した折、転んで足がむくんだため怪我と思い、通院した。医師からは「何ともないが、この体型では膝に水が貯まって歩けなくなるよ」

効な有酸素運動かを思い知った。この水泳プログラムは、一日のエネルギー総消費量とほぼ同じカロリーを消費、おまけに前日食べ過ぎると泳ぎが辛いので食事の配慮もするようになった。会社の仕事を七時には終わらせ、スポーツジムに通っている。新しいジムがこの秋にオープン、泳ぎ友だちもかなりできた。何と云っても泳いだ後の達成感は何者にも変え難い。帰りの星空が疲れを心地よくねぎらってくれるようだ。一緒に泳いでくれる娘が、秋の水泳大会に出場、記録を残す付録もついた。もっとも、彼女はトライアスロンにエントリーするので、二日に八千メートル泳いだり、寺泊まで走る完璧なアスリートモードなので、私の比ではないのだが。もちろん、今年も元日からこのメニューでがんばっているのです。友人数名に「今までがどんだけ（昨年の流行語）だったよね」と笑われても。皆様も水泳いかがですか？

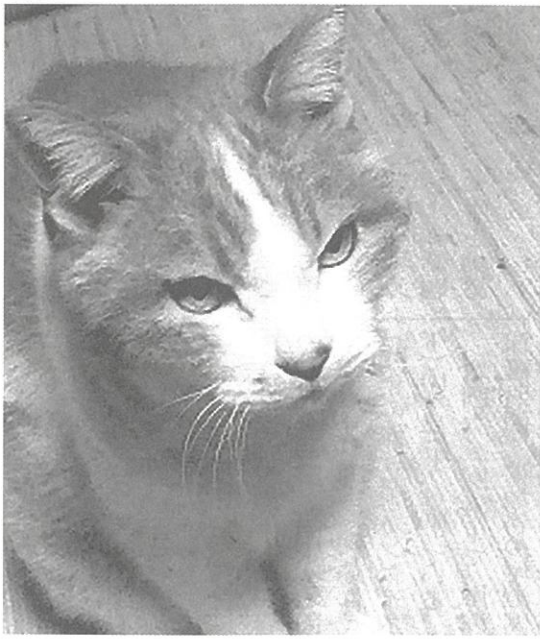


# 満二十歳になりました

ペコのひとりごと

あけましておめでとうございませぬ。

今年のお正月は何年ぶりかでお兄ちゃんも加わり、年末年始の行事も今までは住職一人でやっていたのが、早朝またせ暗い中、本堂での朝課も一人で勤めるのと二人では気持ちの上でも随分違ったと思ひます。



えませぬ。「長生きですな」と申請すると表彰されますよ」と、よく言われますが、言つてただけで私は誕生日が何時なのかわからないのです。そんなことより、毎日心穏やかでいられることが何よりの幸せです。

昨年の秋に肘に瘤ができているとのこと、お母さんから動物病院に連れていか

てもらい待合室で待つていたら、両隣で待つていた猫も二十一歳と十九歳、私と同じような年齢でした。でも、その中でも一番若く見えるとお褒めの言葉を頂き、ちよつと嬉しい気分でした。

時期だっただけに困つてしまいましたが、副住職が一緒にいるという事は良いものです。代わりにやれることは一生懸命カバーしている姿は何とも微笑ましいものです。住職も安心して休むことが出来たので、治るのも早かつたようです。猛威をふるつていいるインフルエンザではないとのこととまず安堵いたしました。ペットたちが移つたら大変ですからね！

今までは雪も降らず毎日時々雨れてばかりでしたが、予報によると今年はカマキリの卵が随分上の方にありますので大雪とのこと、あんまり寒くなると灯油も値上がりしているのです。私達ペット一同仲良く、緒の部屋で過ごさなければなりませんね！ ニヤーン

新しい年を迎え皆様にはお変わりなくこの季刊誌をお読み戴いて感謝申し上げます。

新年明けましておめでとうございませぬ。この季刊誌は発行して十年を迎えました。二口に十年と言ひますが中々大変な作業でした。初代安藤編集長より受け継ぎ何かここまで来たのは皆様読者あつてのことです。感謝申し上げます。どれだけ続ければ判りませんが、これから出来る限り発信して行きたいと思つております。

この季刊誌は年四回発行しております。皆様の投稿が頼りです。出来る限り皆様のご意見・体験・お教え等を掲載したいと思つております。最近では遠慮しているのか投稿が少なくなつてきています。今後ともドシドシ原稿をお送り下さい。手紙でもFAXでもメールでも結構です。

最近ではシニアネットが盛んであります。S n e tなるネット上の交流で四十代後半から八十歳を超えている方まで語り合い写真を見せあい、また集まつては楽しい会を開いています。パソコンは若い方がするものとは考えはしません。便利な機械が出来たと皆さん取り組んでいます。その勢いには圧倒されます。

本来季刊誌は重要なコミュニケーションですが、これからはネット紹介も視野に入ればならなりません。機械音痴の小生の時代ではなくなります。若い方々の新鮮力が必要になります。勿論機械に詳しい方であれば年齢は問いません。

広報でご協力願える方がおりましたらご連絡を賜りたくお願い申し上げます。自薦でも他薦でも構いません。宜しくお願ひするばかりの年明け広報委員会です。

**お便り原稿用紙**

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思ひます。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

第四十二号、春号は平成二十年三月八日(火)発行予定です。